

令和8年度 練馬区立大泉中学校 学校経営計画

練馬区立大泉中学校
校長 大槻 亨

はじめに

教育の目的は、日本国憲法に基づき教育基本法に示されているように「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期す」ものである。これを受け、学校教育法および学習指導要領等において教育の内容や指導時数等が定められている。さらに、設置者である練馬区は、「みどりの風吹くまちビジョン」を策定し、その戦略計画4には、「生徒一人ひとりに応じた、きめ細かい指導や支援により、夢や目標をもち、困難を乗り越える力を備えた子どもを育成」することを目標として掲げている。練馬区教育・子育て大綱では、そのビジョンが掲げる目標への取組として、「1 教育の質の向上」「2 家庭や地域と連携した教育の推進」「3 支援が必要な子どもたちへの取組の充実」の3つの視点を示している。

これらのビジョンや計画を具現化するため、本校では生徒一人一人の夢や目標を支える教育活動を推進する。特に、次年度に控える「創立80周年」という輝かしい節目を、本校の教育活動をさらに深化させる好機と捉え、令和8年度をそのプレ・イヤーとして位置付ける。伝統の継承である「大中プライド」の醸成、地域貢献活動の拡大、そして家庭・地域との絆を一層強固なものとし、全校を挙げて80周年を慶祝する機運を醸成していく。これら全ての取組を、生徒が安心して学び、主体的に生きようとする「めざす学校像」の実現へと繋げていく。

I 教育目標

グローバル化の進展や人工知能(AI)の飛躍的な進化など予測が困難な時代に、生徒が様々な変化に積極的に向き合い、人間尊重の精神を基調として他者と協働して課題を解決し、持続可能な社会の創り手となるよう育成するために、次の教育目標を定める。

◆教育目標

- 健康～心豊かで健康をめざす人
忍耐力をもち、明るく秩序ある学校生活を送る生徒の育成
- 誠実～自分も他人も大切にす人
自他ともに互いの良さを認め合い、真剣、前向きに取り組む生徒の育成
- 努力～進んで学習に励む人
主体的・対話的な学びに率先して取り組む生徒の育成

II めざす学校像

本校の教育目標「健康」「誠実」「努力」を統合し、次のような学校像を掲げ、その実現に向けて「先見性・勇気・行動力」をもって、学校経営を推進する。

○めざす学校像

- (1) 生徒が安心して通える学校
- (2) 生徒の主体性を育み、学ぶ喜びを味わわせ意欲を向上させる学校
- (3) 人との関わり合いを通し、コミュニケーションの能力を高める学校
- (4) 教職員が専門職としての力量を高め、生徒たちと共に努力し学ぶ学校
- (5) 情報発信を通して、保護者が信頼し、地域が誇りに思う学校

学校の設置目的は、生徒に教育指導を行い個に応じた成長を促すことにある。よって、すべての教育

活動は生徒の成長にとってどんな意味があるかをもって判断しなければならない。

そのためには、生徒を育む人間関係は受容的で相互啓発的なものが必要である。生徒と生徒、生徒と教員、教員と保護者、学校と地域など、大泉中学校を取り巻く全員が良好な関係を築き、何らかの形でつながっている状態をつくる必要がある。その協働体制のもとで、生徒が安心して学び、互いに高め合い、自己の夢をふくらませ、主体的に生きようとする態度を育てていく学校づくりを目指す。

Ⅲ めざす学校像を達成するための基本方針

Ⅰ めざす生徒像

「自律」	自ら考え主体的に行動する生徒
「協働」	自他ともに互いの良さを認め合い、協力して取り組む生徒
「創造」	より良い社会を探求し新しい時代を創造する生徒

(1) 「自律」 自ら考え主体的に行動する生徒

基礎的な知識および技能を習得するとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、その他の能力を身に付け、主体的に学習に取り組み行動する生徒

<育成に向けた手だて>

- ① 生徒一人一人が関心を高め、意欲的に学びたくなる授業、個別最適な学びを工夫する。
- ② 生徒自身に自己の目標を設定させ、目標達成に向けて挑戦させる。
- ③ 基礎的・基本的な内容を確実に定着させる授業と補足的、発展的な学習を充実させる。
- ④ 主体的に学習に取り組む活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等を育成する。
- ⑤ 授業開始の2分前準備・着席を行い、チャイムと同時に授業を始められるよう時間を意識させる。
- ⑥ 小中一貫教育を推進し、学びの連続性を意識させて達成感や学力の向上を実感させる。

<具体的な内容・方策>

- ・大泉中授業スタンダードの推進 ・ICT 機器を活用した授業展開 (AI の活用)
- ・指導と評価の一体化推進・観点別評価規準・評価材料の明確化
- ・補足的・発展的な学習の充実 ・家庭学習の充実 ・外部検定等の活用 (国・数・英など)
- ・生徒による授業評価 ・校区别協議会の活性化 ・授業開始2分前準備・着席の実施

(2) 「協働」 自他ともに互いの良さを認め合い、協力して取り組む生徒

互いの人権を尊重し相手を思いやる豊かな心を持ち、他者と協働して課題を解決しようとする生徒

<育成に向けた手だて>

- ① 生徒個々の状況把握に努め、生徒に寄り添う教育相談的な姿勢で支援する。
- ② 大泉中の伝統を継承させ、望ましい人間関係の構築に向けて支援する。
- ③ 存在感・所属感・充実感を味わいながら生活できる環境作りを推進する。
- ④ 生徒の社会性や豊かな人間性の育成につながる体験活動や奉仕活動を推進する。
- ⑤ いじめ・暴力行為等を絶対に許さない学級、学校風土を醸成する。

<具体的な内容・方策>

- ・自尊感情の育成 ・一人一役の活躍 (学校・学年行事・生徒会活動・部活動など)
- ・上級生が手本となる伝統の継承 (大中プライドの意識の醸成) ・互いに支えあう風土の醸成
- ・ユニバーサルデザインに基づく教育環境の整備 ・合理的な配慮に基づく支援

(3) 「創造」 より良い社会を探求し新しい時代を創造する生徒

社会の様々な変化に積極的に向き合い、持続可能な社会の創り手として新しい時代を創造しようとする生徒

<育成に向けた手だて>

- ① 明るく、元気なあいさつのできる生徒に育てる。(教員がその手本となる)
- ② 不測の事態や逆境にあっても、それを乗り越えるスキルを身に付けさせる。
- ③ 多様な表現を通じて、教職員と生徒、生徒同士が対話し、それによって思考を広げ深めていく。
- ④ キャリア教育を充実させ、集団の中における自分の役割を認識させるとともに、豊かな自己実現に向けて努力させる。

<具体的な内容・方策>

- ・授業、学校・学年行事、生徒会活動、部活動など、あらゆる場面における教職員と生徒、生徒同士の対話の積み重ね
- ・「あじみこし」(あいさつ・時間を守る・身だしなみを整える・言葉遣い・姿勢)の実践
- ・あいさつや校歌を全力で歌う生徒の育成 (大中プライドの意識の醸成)
- ・キャリアパスポートの活用 ・個に応じた指導、支援の充実

2 めざす教師像

- ・主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、授業改善を追求する教師
- ・協調と協働を根底に置き、情熱と使命感にあふれる教師
- ・あきらめない生徒指導に徹し、信頼される教師

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現をめざし授業改善を追求する教師

- ① 生徒一人一人の学力を高めるための指導力向上に向けた授業研究、校内研究を充実させる。
- ② 学習指導要領に基づいた授業実践。個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた自己研鑽

<具体的な内容・方策>

- ・ICT機器を活用した授業展開 ・課題解決型授業実践の工夫 ・全教員の研究授業 | 回
- ・生成AIパイロット校プロジェクトチームの推進による個別最適な学びの実現
- ・教科部会の充実(指導と評価の一体化) ・生徒による授業評価と授業改善
- ・全国学力調査・都意識調査等の結果の活用

(2) 協調と協働を根底に置き、情熱と使命感にあふれる教師

- ① 教育計画の確実な実施に向け、組織で職務にあたり学校運営への参画意識を高める。
- ② 分掌の職責を果たすとともに、同僚性を高めて互いの考えを尊重して協働する。
- ③ 公務員の職務専念義務を果たし、全体の奉仕者としての意識を高め、保護者・地域の信頼を得る。
- ④ サービス事故(特に体罰、暴力、暴言、ハラスメント)を起こさない教育活動を徹底する。
- ⑤ 4級職教諭を中心に経験の浅い教員の育成を図り、効率的で合理的な分掌組織を運営する。

<具体的な内容と方策>

- ・「報告・連絡・相談+記録」の徹底 ・会議におけるペーパーレス化の促進
- ・サービス事故防止研修の実施 ・生徒アンケートの活用 ・OJTの活用

(3) あきらめない生徒指導に徹し、信頼される教師

- ① 人権尊重の視点に立った生徒理解と指導、信頼を基本とした望ましい人間関係作りを推進する。
- ② 生徒の自己実現に向けて、使命感をもって積極的に指導にあたる教職員の組織作りを推進する。
- ③ 問題行動に対して早期発見、即事対応を心掛け、「見落とさない、見過ごさない、見放さない」指導を徹底する。
- ④ いじめや事故対応に際しては、「さしすせそ」(最悪を考え・慎重に・素早く・誠実に・組織的に)を意識し、適切な初期対応に全力をあげる。
- ⑤ 不登校生徒へ、粘り強く対応するスキルの向上と組織づくりを推進する。

<具体的な内容の方策>

- ・教育相談活動の充実 ・不登校家庭への家庭訪問の充実 ・ホッとルームを活用した居場所づくり、絆づくりの促進 ・キャリアパスポートの活用 ・外部の関係機関との連携の強化（孤立化の予防）

3 家庭・地域社会等に対して

家庭・地域・関係機関等との関係相互理解や連携・協力により、地域に根ざした学校を作る。

- ① 学校の基本姿勢や教育活動を積極的に発信し、保護者や地域の理解を得る。
- ② 保護者や地域からの情報等に対して謙虚に耳を傾け、誠実に対応する。
- ③ 地域の教育力の活用や地域活動への積極的な参加を促し、生徒の自立や社会性を育成する。
- ④ 80周年記念行事開催に向け、家庭・地域・関係機関等との連携を強化する。

<具体的な内容の方策>

- ・学校だより・学年だより等の発行 ・学校ホームページの充実 ・学校評議員会
- ・80周年行事の推進 ・P T A活動への参加 ・学校評価アンケートの実施（年1回）

IV 中期的な目標と方策

I 生徒

(1) 個別最適な学びと協働的な学びの実現

- ① 「大泉中学学習スタンダード」を活用し、基礎的、基本的な知識・技能を確実に定着させるために授業の構造化を図り、AIの活用や指導方法、指導体制の工夫改善により、個別最適な学びを実現する指導を行う。
- ② 生徒の興味・関心等を踏まえて、個別最適な学びに取り組む機会を設ける。
- ③ 探究的な学習や体験活動などを通じて、読み解く力や自分の考えをまとめる力、分かりやすく表現する力等を高め、多様な他者と協働しながら課題等を解決する能力を身に付けさせる。
- ④ 学習活動の中で個々の生徒の実態を適切に把握するとともに、生徒が自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整することができるような指導や支援を行う
- ⑤ ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境を整え、合理的な配慮を行うことにより、生徒が集中して授業に取り組める清潔で快適な学習環境の整備に努める。

(2) 豊かな心の醸成

- ① 生徒間および教師と生徒が互いの人格を尊重しながら信頼関係を築き、生徒一人一人が自己有用感をもてるよう、学年・学級経営計画に基づいた学級経営を充実させる。
- ② 全教育活動を通して「大中プライド」の伝統を継承させ、望ましい人間関係を構築させるとともに、基本的な生活習慣「あじみこし」（挨拶・時間・身だしなみ・言葉・姿勢）を浸透させる。
- ③ 道徳の授業を中心に規範意識や思いやりの心を育成するため、生徒が道徳的価値を多面的・多角的に理解するように「議論する道徳授業」など指導方法を工夫し、学習記録を蓄積することにより生徒の変容を的確にとらえて評価する。
- ④ 生徒・教師の言葉や掲示物等の言語環境を整え、「言葉」を大切にする態度をはぐくむ。
- ⑤ いじめの未然防止に向けて「学校いじめ防止基本方針」「SNS学校ルール」に基づく指導の徹底を図り、いじめ対策委員会による組織的な対応、家庭との連携による指導を推進する。
- ⑥ 特別支援学級と通常学級との交流や学習活動をとおして、互いに認め合い、励まし合い、高め合う人間関係を構築する。
- ⑦ 特別な支援を必要とする生徒について、特別支援校内委員会を中心に、巡回指導教員と連携して個別指導計画および学校生活支援シートを作成し、合理的な配慮に基づく支援を充実させる。
- ⑧ 不登校傾向のある生徒について、生活指導部を中心に、S Cや心のふれあい相談員を活用した支

援や指導を行うとともにSSWrや民生児童委員など関係機関との連携を強化し、個別の状況に応じたきめ細やかな支援を充実させる。

- ④ 9年間を見通した小中学校で一貫した指導や、いじめ・不登校の防止など豊かな心の育成に向けた取組を実践し「目指す15歳の姿」を実現させる。

(3) 健康と体力の増進

- ① 感染症予防に向けた衛生環境の整備と、生徒の健康作りを推進するための保健、給食年間計画等の作成と意図的な指導、学校保健委員会や栄養士を活用した食に関する指導や、食物アレルギーへの対応・対策を徹底する。
- ② 発達段階に応じて喫煙防止、薬物乱用防止教育等を適切に実施する。
- ③ 「学校2020レガシー」の構築に向け、「障害者理解の促進」「ボランティアマインド」の醸成に向けた取組を推進するとともに、オリパラ教育で学んだ「スポーツ志向」の育成を継続する。
- ④ 部活動は全教員が顧問となり、外部指導員等を活用しながら指導の充実を図るとともに、部長を中心に生徒が主体的に活動する場となるよう指導する。
- ⑤ 安全管理と事故防止を徹底し、自然災害や事故発生時の対応訓練を年間計画に基づいて確実に実施するとともに、小学校、保護者・地域・関係機関との連携に基づく防災訓練を実施する。

(4) キャリア教育の視点に立った進路指導

- ① 学校・地域連携事業や外部人材を活用した講話や職場訪問や職場体験などを通して、学習内容と職業を関連付けて捉えさせ、社会的・職業的自立に向けて必要な態度や能力、生き方について考えさせる。
- ② 特別支援学級と通常学級との交流や福祉体験、ボランティア体験等を通して、共生社会の実現や社会貢献について考え、行動する力を養う。
- ③ 3年生については、自己の生き方について考え、卒業後の進路について明確な目的意識をもたせて進路選択ができるようガイダンス機能の充実を図る。

(5) 豊かな国際感覚の醸成

- ① 各教科、特別活動などとの関連の中で、日本の伝統・文化理解教育を推進し、我が国と郷土を愛する気持ち、誇りに思う気持ちを醸成する。
- ② 全教育活動を通して、他国の伝統・文化や人種を尊重する心、国際社会の一員として社会に貢献しようとする意欲や態度を醸成する。
- ③ 英語科の授業ではALTの活用を推進し、英語によるコミュニケーション能力を高めるとともに、イングリッシュキャンプなどでの体験活動を通して、英語を学ぶ意欲や英語力の向上を図る。

2 教職員

(1) 能力開発と資質の向上

- ① 教員一人一人が日常の教育活動や言動を見直し、人権感覚を磨くとともに、体罰や不適切な指導の根絶に向けてコミュニケーション能力や人間関係調整力の向上を図る。また、常に、公務員としての自覚をもってサービスの厳正を図り、教員相互でサービス事故防止に努める。
- ② 職場環境の整備に努め、机上や各種資料の整理整頓、鍵などの適正な管理に努める。
- ③ 中教審答申や学習指導要領改訂などの学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、生涯を通じて自己研鑽に努め、生徒の主体的な学びを支援する伴走者としての役割を果たす。
- ④ 総合的な視野に立った予算編成および、計画的・効率的な予算執行に努め、常にコスト意識をもって職務を遂行する。

(2) 組織力の向上

- ① 自らの心身の健康状態、互いの健康状態に留意し合い、教職員同士が支え合い学び合う同僚性を基盤とした組織風土（雰囲気）を醸成し、チーム学校として本校の教育活動を充実させる。
- ② 事故発生時や困ったときに同僚教職員やスタッフが親身になって相談に乗り、改善策や助言がもらえる、受容的・支持的・相互扶助的な人間関係を重視し、一体的な指導を行う。
- ③ 校長のリーダーシップのもと、多様なスタッフや外部人材を活用し、関係機関と連携協力しながら、質の高い教育活動や今日的な課題を解決する。
- ④ 若手教員に対するOJTやミニ研修等を推進し、経験豊富な教員の指導力を継承する。

3 家庭・地域

(1) 保護者や地域から愛され、信頼される学校づくり

- ① 年間を通じて学校公開や保護者会の機会を積極的に設定するとともに、開催内容の工夫改善に努め、保護者・地域の声を積極的に収集する。
- ② 学校だよりや学年通信等を適宜発行するとともに、ホームページを充実させ、学校情報の公開に努めるとともに、各学年、生徒会、部活動等の情報提供に努める。
- ③ 学校評議員会を開催し、学校の自己評価や生徒・保護者アンケートなどの結果に対する学校関係者評価を実施し、その結果を教育活動や学校運営の改善、充実に結び付ける。
- ④ 生徒会主体の地域貢献活動を周年行事のプレイベントとして位置づけ、多くの生徒が主体的に参加する奉仕活動を実施するとともに、生徒・地域理解のため、教職員の地域行事や小学校行事への参加を推進する。
- ⑤ 80周年記念行事開催に向け、周年行事委員会を中心に全教職員が何らかの形で関与できるよう役割を明確化し、「チーム大泉」としての連動性を高め、家庭・地域・関係機関等との連携を強化し、80周年を慶祝する。

V いじめ・体罰への組織的対応について

I いじめ問題等への対応

- ① 学校いじめ対策推進委員会を中心として、いじめの未然防止、早期発見・対応・解決を目指した取組を「大泉中学校いじめ問題対策方針」として定め、全教職員が保護者や地域、学校関係者と一体となって、いじめの根絶に努める。
- ② 年3回の「いじめに関するアンケート」を工夫して行い、生活指導部会で情報共有するとともに、スクールカウンセラーやふれあい相談員を活用しながら、いじめの早期発見・解決に努める。
- ③ 悪質ないじめや集団的な暴力等については、警察等と連携し、問題行動の解決と再発防止に向けた取組を推進する。
- ④ 地域・家庭との連携を深め、学校や家庭のSNSルールを見直し改善するとともに、望ましいインターネットや携帯電話、タブレット端末の使い方についてルールやマナーを理解し、守ることができる態度を養う。そのため、セーフティ教室や情報モラル教室、保護者対象の情報モラル講習会等を関係機関と連携して開催する。

2 体罰や性暴力等への対応

- ① 教職員が「体罰や性暴力は重大な人権問題である」との認識に立ち、日頃から研さんを積んで指導力を磨き、相互に体罰や性暴力を許さない学校風土を醸成する。
- ② 指導困難な生徒への対応に関しては、個人ではなく組織的に対応する。
- ③ 年間3回以上の服務事故防止研修を実施し、体罰や性暴力等についての研修を実施するとともに、相談窓口を生徒や保護者に周知して問題の早期把握と対応に努める。
- ④ 人権を基盤とした教育・研修等プログラムの実施をとおして児童生徒への性暴力の根絶を図る。

VI 令和8年度の重点目標と具体的方策

経営目標		短期目標	具体的な方法	評価方法・AB評価目標値 (昨年度AB評価実績)
生	確 か な 学 力	①大泉中授業スタンダードを踏まえた「わかる授業・魅力ある授業」の展開と「主体的・対話的で深い学びの実現」をめざした授業の追求	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の構造化による学習課題やポイント、流れの明確化、可視化（ICT機器の活用） ・生徒一人一人が思考・判断・文書などに表現する場面を取り入れた課題解決型授業の実践（生徒タブレット端末の活用） ・小グループや少人数指導による協働的な学習活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業に関する質問紙項目4～7の肯定的評価平均80%以上（82.1%） ・項目7「タブレットでのやり取りも含め、生徒同士の意見や考えを伝えあう機会がある」の肯定的評価70%以上（70.1%）
		② 学習指導要領を踏まえた年間指導計画・評価計画の作成と実施	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画と評価計画の見直し、改善と年度当初の開示。 ・評価の信頼性・妥当性を追求するための評価材料の明確化。（1、2学期に管理職に提出） 	◆保護者質問紙調査項目4および5の肯定的評価平均80%以上（81.2%）
		③基礎学力の定着と家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題や単元テスト、小テストの予習など課題の提示（週50%以上） ・生徒タブレット端末のオンライン学習教材の活用 ・定期考査前や長期休業日の質問教室や補充学習の実施 	◆授業に関する質問紙項目3「家庭学習に意欲的に取り組んでいる」の肯定的評価60%以上（57.5%）
		④学習意欲の向上に向けた検定やコンクールの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・英語・漢字・数学検定等の奨励 ・検定試験前の対策教室の実施 ・全教員やSSSによる積極的な支援 ・実施方法の適切な設定 	◆受験率 60%（60%）
徒	豊 か な 心	①個々の生徒のよさが発揮できる学級経営や学校行事の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学年経営案、学級経営案による意図的、計画的な学年・学級経営 ・年度当初に全生徒対象の教育相談 ・年2回の個別面談の実施 ・基本的な生活習慣「あじみこし」の指導 ・達成感のある学校行事の実施 	◆保護者質問紙調査項目6と9、10の肯定的評価平均90%以上（90.2%）
		③「特別の教科 道徳」の内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づく意図的な指導 ・道徳的实践力向上のための指導法改善 ・道徳的価値を多面的、多角的に理解するための活動の充実と記録の蓄積 	◆保護者質問紙調査項目11と13の肯定的評価平均80%以上（85.2%）

	④教育相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の心の安定を図り、外部機関とつながりのない不登校生徒ゼロを目指した教育相談、個人面談等の実施（年間2回） 1年生全員を対象としたSCによる面談の実施 	◆保護者質問紙調査項目14 「教育相談期間を設けるなど、個々の抱える悩みに対応している」の肯定的評価80%以上（80.6%）
	⑤特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級と通常学級の交流及び共同学習の充実 校内委員会での情報交換、巡回教員やSC、専門員との連携による個別支援の充実 個別指導計画に基づく指導の実施と結果の検証、PDCAサイクル化 	◆保護者質問紙調査項目17 「10組との交流および共同学習が十分に行われている」の肯定的評価80%以上（87.6%）
	⑥いじめ問題の防止と適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> 「学校いじめ防止基本方針」に基づく未然防止指導の徹底 校内いじめ対策委員会を中心とした組織的で迅速な対応、いじめの解消・解決 	◆年間3回の調査および個人面談の確実な実施 ◆いじめの発見率100% ◆いじめの解消率100%
健康・体力	①生徒の健康づくりと体力向上の推進 ②安全管理と事故防止の推進	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じた体力づくりの実施 区の部活動の在り方に関する方針に沿った部活動指導の充実。（全教員で補完する） 年間指導計画に基づく、様々な状況を想定した避難訓練等の実施 	◆保護者質問紙調査項目15 「部活動は部活動指針に対応し、運営されている」の肯定的評価85%以上（84.7%） ◆保護者質問紙調査項目11と16の肯定的評価平均85%以上（91.5%）
キャリア教育	①体験的な学習活動によるキャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画に沿った発達段階に応じた体験的な学習活動の充実 校外学習等による日本の伝統文化体験学習 ALTやイングリッシュキャンプを活用した国際交流の実施 	◆保護者質問紙調査項目7「能力や適性にあったキャリア教育が行われている」の肯定的評価平均80%以上（82.9%）
小中一貫教育	①小中一貫教育研究実践校としての取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「目指す15歳の姿」を実現させるための校区别協議会の充実（年間2回） 	◆保護者質問紙調査項目19 「小学校と中学校の連携は適切に行われている」の肯定的評価60%以上（70.6%）
教職員	①授業改善と授業力の向上 ②新学習指導要領に基づく指導と評価についての研究 ③服務事故の根絶	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の「学びに向かう力」を高め、思考・判断・表現力を高める授業改善（ICTの活用） 研究授業の実施（1人1回） 体罰や不適切な指導の根絶に向けた服務事故防止研修の実施（年間3回以上） 	◆教員質問紙調査項目3～5の肯定的評価平均90%以上（97.6%） ◆服務事故発生率0(0)%

組織力の向上	① 4 級職教諭を中心とした組織的な学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の運営連絡会議の実施 ・週 1 回の企画委員会における各分掌からの起案事項の適切な協議 ・4 級職教諭との定期的な経営会議の実施 ・若手教員対象ミニ研修の実施（年 15 回） 	◆保護者質問紙調査項目 2 「教育目標の達成率」85%以上（86.2%）
	①教職員のライフワークバランスの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・校務の効率化や組織的な対応による在校時間の縮減（月 45h、年間 320h） ・夏休連続 5 日、年休取得 10 日以上 	<ul style="list-style-type: none"> ◆上限内達成率 50%（40%） ◆夏休連続 3 日以上 90%（95%） ◆年休 10 日以上 70%（71%）
家庭・地域	<p>信頼される学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校・地域連携事業の積極的な運用 ②土曜日授業の内容の充実 ③PTA 事業や地域行事等への積極的な参加、協力 ④開かれた学校づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターとの連携による地域人材の積極的な登用と活用 ・土曜日の公開授業や各種行事の内容の工夫による保護者参観者の増加 ・生徒会や部活動を中心とした地域ボランティア活動の充実 ・PTA 活動や地域行事等への全教員の参加・協力（年 1 人 1 回） ・学校だより・ホームページの定期的な発行・更新と記事の多様化（毎日） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆保護者質問紙調査項目 12 「学校の様子が適切に家庭や地域に伝わるように努めている」の肯定的評価平均 80%以上（92.6%） ◆保護者の参加率前年度比 10%向上 ◆保護者アンケート回収率 70%以上（49.0%）

※単年度の目標に対する評価については、年度末の学校評価等と関連性をもたせ、AB 評価の目標値を設定し、評価する。（ ）内は令和 7 年度 AB 評価実績。